

	収穫の喜びは何にも代えがたいですね
4:30 起床	
5:30 ぶどうの摘み取り開始	
ぶどうに水分が多い早朝の涼しい時間帯に収穫する。みずみずしい味を届けることができ、日持ちもよい。	
7:00 梱包、箱詰め	
摘み取りコンテナに入ったぶどうを持ち帰り、重さで選別。梱包し、出荷用の箱に丁寧に詰める。その日のうちに直売所に持っていくこともある。	
13:00 煙へ	
糖度計で糖度チェック。草刈りやわき芽の撤去、防除、収穫準備などが夜まで続く。	

## DATA

## 瀧川和敏さん・順子さん

【お問い合わせ】  
井原市役所 農林課  
岡山県井原市井原町311-1  
TEL:0866-62-9522

瀧川さん：ずっと京都で福祉関係の仕事をしていましたが、家庭の事情で故郷の岡山県総社市に戻りました。いつかは若いころから夢であった農業に従事したいと思っており、私の周囲の環境が一段落したところでも「思い切って就農しよう」と決意。その後、岡山県内はもちろん、兵庫県などさまざまな農地を見て回りました。自分の生まれ育った総社でも栽培されているぶどうに親しみがあつたので、いつしかぶどうを栽培したいと思うようになりました。

伊藤さん：私は現在、農業実務研修中で、将来はぶどう栽培農家として生計を立てたいと考えています。井原市青野町を選んだ決め手を教えてください。

瀧川さん：訪れた地の二つ、井原市青野町は、台風や日照り、長雨の被害の少ない地域でした。赤土と斜面が多い青野町のぶどうは、半世紀近く栽培され、味に定評があります。また、ビオーネという主力品種の他、さまざまな品種のぶどうを栽培していく長いシーズン収穫でくる点がメリットを感じました。

黒、赤、緑色のぶどうを組み合わせた3色セット等、売り方が選べるのもいいなと思いました。私はお酒が好きですから、ワインになるぶどう栽培に関わるものいいな、なんて笑)。

井原市には、新規就農者に対するさまざまな支援が行われています。まずは、妻と一緒に井原市の就農説明会に参加。その後、現地見学を経て、農業体験のできる一ヶ月の短期体験研修を受けました。そして、栽培農家さんのところで2年間、実践しながら技術を学ぶ農業実務研修を受けつつ、2013年よりぶどう栽培をスタートさせました。現在、ぶどうの木ごと引き継いだ農園が約35

半世紀の歴史をもつ  
井原市青野町のぶどう瀧川さん：ずっと京都で福祉関係の仕事をしていましたが、家庭の事情で故郷の岡山県総社市に戻りました。いつかは若いころから夢であった農業に従事したいと思っており、私の周囲の環境が一段落したところでも「思い切って就農しよう」と決意。その後、岡山県内はもちろん、兵庫県などさまざまな農地を見て回りました。自分の生まれ育った総社でも栽培されているぶどうに親しみがあつたので、いつしかぶどうを栽培したいと思うようになりました。

伊藤さん：私は現在、農業実務研修中で、将来はぶどう栽培農家として生計を立てたいと考えています。井原市青野町を選んだ決め手を教えてください。

瀧川さん：訪れた地の二つ、井原市青野町は、台風や日照り、長雨の被害の少ない地域でした。赤土と斜面が多い青野町のぶどうは、半世紀近く栽培され、味に定評があります。また、ビオーネという主力品種の他、さまざま

なるぶどう栽培ができる点がメリットを感じました。

黒、赤、緑色のぶどうを組み合わせた3色

セット等、売り方が選べるのもいいなと思

いました。私はお酒が好きですから、ワインに

なるぶどう栽培に関わるものいいな、なんて

笑)。

井原市には、新規就農者に対するさまざま

な支援が行われています。まずは、妻と一緒に井原市の就農説明会に参加。その後、現

地見学を経て、農業体験のできる一ヶ月の短

期体験研修を受けました。そして、栽培農家

さんのところで2年間、実践しながら技術

を学ぶ農業実務研修を受けつつ、2013年

よりぶどう栽培をスタートさせました。現

在、ぶどうの木ごと引き継いだ農園が約35



(1)「互いによく話し合うことが大切」と瀧川夫妻。和敏さんが左利き、順子さんが右利きなので、並んで収穫するとき、互いに作業がしやすいのだそう。後ろに見えるのは、初冬のぶどう「紫苑」(2)岡山が誇る「大粒・種無し・甘い」と三拍子揃ったビオーネ(3)黒、赤、緑色のぶどうを組み合わせた3色セット。贈答用に人気が高い(4)現在、農業実務研修中の伊藤照さん(30)。「いつかは妻と一緒にぶどうで生計を立てたい」と奮闘中



やっと見つけた納得の地で、妻と力を合わせて歩む  
ぶどう農家の道。



岡山県井原市  
ぶどう  
瀧川 和敏さん・順子さん

納得するまで、農地を見て回った瀧川さんは、井原市青野町。本気で就農したい人を応援する井原市。各種研修や資金の支給、講習会等、手厚い新規就農支援がある。夫婦とも農業の経験はなかったが、周囲の協力を得て、5年目の収穫を終えようとしている。